



# 園長だより

第10号



新渡戸文化子ども園  
平成27年2月23日

## 「規範的なミス」と「技術的なミス」

先日、子ども達がじゃんけんゲームをホールでやっているのを目にする機会がありました。先生とじゃんけんをして、二人組で勝ち抜いていくゲームでした。良く見ていると、先生から見えにくい所の二人組が、あいこや負けている時にずるをして勝ったようにごまかしていました。

先生が前で一斉的に保育をなさっていたので、同日中であればお話をしても間に合うと考えそこはひとまずその場を去りました。

帰りの時間に、お話を聞いてみました。

\*\*\*以下その時の様子です\*\*\*

「じゃんけんで負けてたのは知っていたの？」

（え？園長先生みていたの？の表情）しかたないとあきらめ真剣にうなづく。

「じゃんけんで負けたのに、勝ったと言ってしまったの？」

神妙にうなづく。

「負けたのに、勝ったというのはいいことかしら？」

首を大きく横に振る。

「いけないとわかっていたのね。だったら、次にゲームをするときには負けた時は負けたと言いましょね。」

真剣なまなざしで首を大きく縦に振る。（悪い事だとわかっていたので納得の表情）

上記のように出来なかったのではなく、しなかったルール無視（規範的なミス）を注意したりする事は、社会性の芽生えを促す幼児教育においてもとても重要な事です。

しかし、じゃんけんのきまりを精一杯守ろうとしているのに、たまたま先生の出したものが見えずに守れなかった等の結果（技術的なミス）を叱ったり注意をしたりすることは、子どもに理不尽さを感じさせるだけで、本来伝えたい事が伝わりにくくなってしまいます。

「一罰百戒」という言葉がありますが、一生懸命やっている中でできなかった結果やミス（技術的なミス）には、寛容に子どもと接することが大切なように思います。

そして、規範的なミスと技術的なミスをきちんと分けて子どもと向かい合う事により、理不尽さを軽減させ、本来子どもに伝えたい事と願っている思いがしっかりと伝わるのでしょうか。

叱ったり、注意したりするのが難しい現代において、相手の理不尽さを軽減させる必要性はあります。それと同時に大きな事故に繋がったり、人の気持ちを傷つける等の場合は、躊躇せず注意を伝えていかななくてはならないな、と改めて子ども達と一緒に考える良い機会でした。

### 発表会後記

2月14日(土)の発表会にはたくさんの方にご来場いただきましてありがとうございました。おじいちゃん、おばあちゃんにも来ていただきました事に心からの感謝をいたします。「まごわやさしい」をテーマに1年間の行事に取り組んでまいりました。食育のテーマではありましたが、「まごわやさしい」と連呼したことで、「孫はやさしい。おじいちゃん、おばあちゃんに優しくすることは大切。」という事も同時に感じる場面が毎日の保育の中であつたようです。

子ども達の成長に、「感動しました。本当に子ども達は素晴らしいですね。」と保護者様から言っただけ、先生方も目頭を熱くしていたようでした。「ありがとうございました。」

